

(5) 将来都市構造

都心・副都心、地域拠点として整理した各拠点を図として表すとP66のとおりです。

拠点をこれらをつなぐ軸から構成される、目指すべき本市の将来の全体都市構造は、門司港が頭で、学術研究都市が尻尾、南の下曾根・八幡南等を足とする、いわば「コンパクトザウルス」型の都市構造とすることができます。

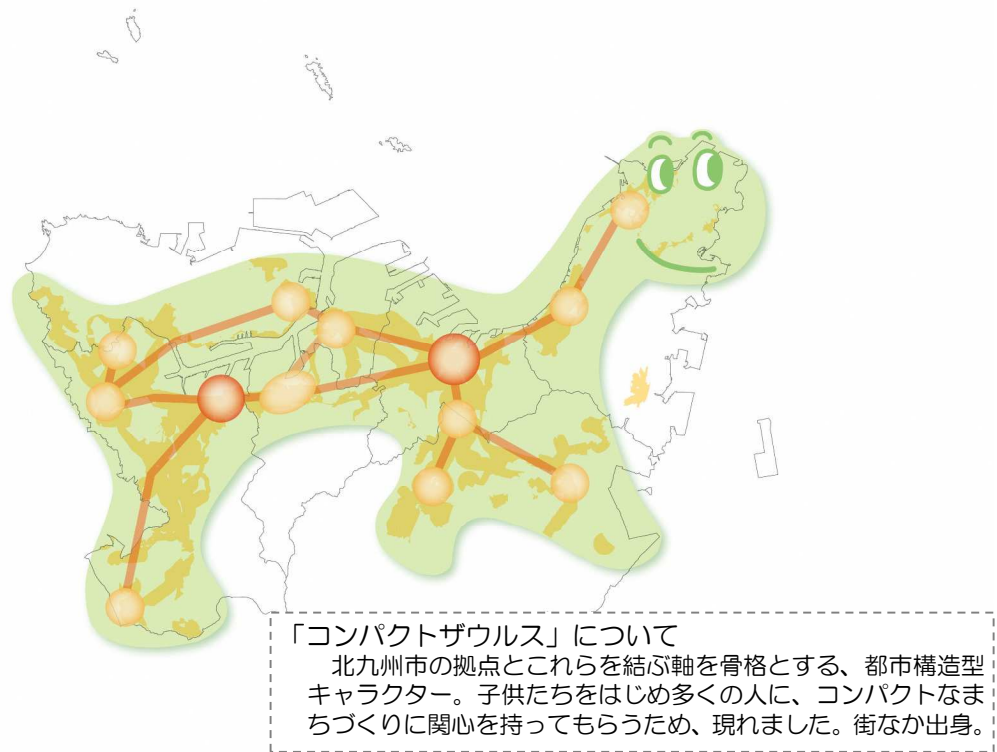


図 「コンパクトザウルス」型の都市構造



